

第 34 回奈良県立図書情報館戦争体験文庫資料展示

小学生国史受験かるたの世界



平成 25 年 6 月 29 日(土)～9 月 29 日(日)

解 題

「いい国(1192)つくろう鎌倉幕府」。こんな語呂合わせで歴史の年代を記憶した人も多いのではないだろうか。同様の語呂合わせは、戦前からあったことを教えてくれるのが、この「小学生国史受験かるた」である。

明治末～昭和戦前期の学校制度では、義務教育として6年制の尋常小学校があり、その後無試験で2年制の高等小学校へ進むことはできた。しかし、複線型学校制度のもと、高等小学校を卒業しても進路は限定されていた。そのため、都市部を中心に、尋常小学校卒業後、受験が必要な中学校(中学校、高等女学校、実業学校)への進学熱が、次第に高まっていった。

このかるたが作られたと推定される昭和10年代前半では、尋常小学校を終えてすぐに中学校に進学する生徒は、全体の約2割に及んでいたという(菊池城司「誰が中学校に進学したか」『大阪大学教育学年報』2)。つまり、「中学受験」のすそ野は、多くの小学生に広がっていたのである。

明治33年制定の小学校令は、当初教科目名を日本歴史としていた。しかし、大正9年からの国定教科書改訂で、教科書の書名が「日本歴史」から「国史」に変更され(『日本教科書大系』近代編20)、

大正15年の小学校令改正(勅令第73号)で、正式に「国史」が教科名となった。

国史は尋常小学校の5年生、6年生及び高等小学校で習得することになっていた。他に、戦後成立する「社会科」に連なる科目として地理や修身があったが、外国史(世界史)は、高等小学校を含めて小学校では教えられていなかった。

かるたを見ると、現在では神話として扱われる項目等が入ってはいるものの、取り上げられる歴史事象自体は、一見現代のものとはさほど変わっていないようにも見える。しかし、戦前の国史教育は、帝国臣民としての教化を大きな目的としていた。当時、実証的な歴史家として知られ、教科書を執筆するなど教育界への影響力もあった中村孝也によれば、奈良朝の成立を理解するために必要な壬申の乱も、天智天武天皇兄弟の争いであるため「教化の立場から見ると、百害あって一利なしと認め」「小学国史でも、中学諸学校の教科書でも全然これをはぶ」かれていたという(『国史教育論』章華社,1934 189頁)。

絵札の裏には、関連する応用問題が記されており、この応用問題となると、より戦前色が見えてくる。例えば人物を祀る神社の名前を答えさせる設問も多く、織田信長を祀った建勲神社の名など、



戦後教育を受けて育った人にとっては難問であろう。

「吉野朝廷時代終わる」の裏面も、戦前戦後の歴史観の違いが顕著である。明治末に決定された後醍醐天皇の系統(南朝)を正統とする立場から、南北朝時代を「吉野朝時代」と記すのはもちろんとして、足利初代将軍の名を問う設問は興味深い。答にあるカッコ内の「高時」は明らかに足利高(尊)氏の誤植であるが、戦前の歴史教育では、その尊氏は「足利初代将軍」ではないのである。つまり、「北朝」から任じられた足利尊氏と義詮の将軍位は無効であり、南北合一を果たし正統性のある朝廷から、将軍に任じられた義満が「足利初代将軍」という歴史認識である。

また天皇の代数も、応神天皇より前の天皇の実在を疑い、南北朝に正潤つけない戦後の歴史観を反映して、現代の歴史教育では使われていない。しかし、戦前には小学校の段階で、神武から今上に至る全天皇の名の暗誦を求められたことが、しばしば回顧されている。

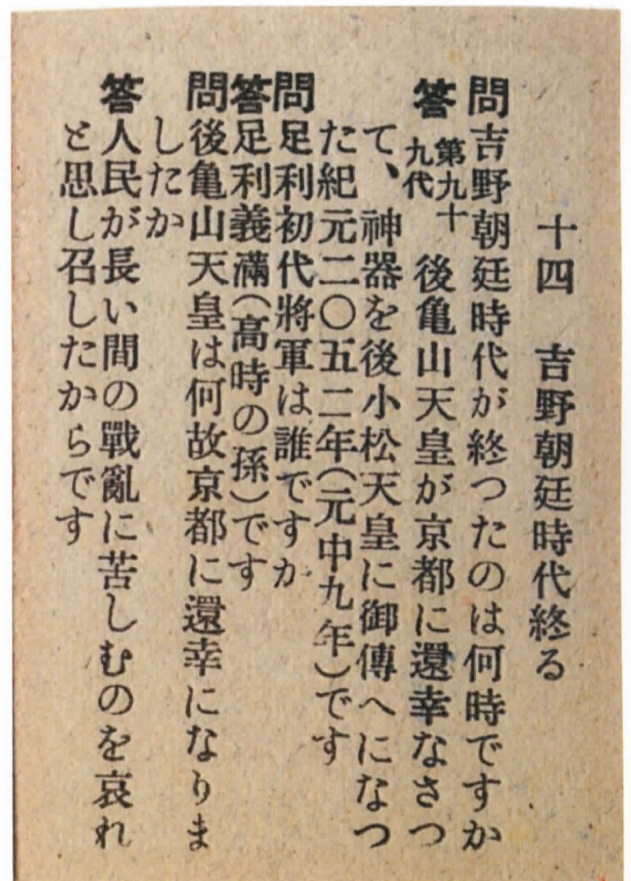
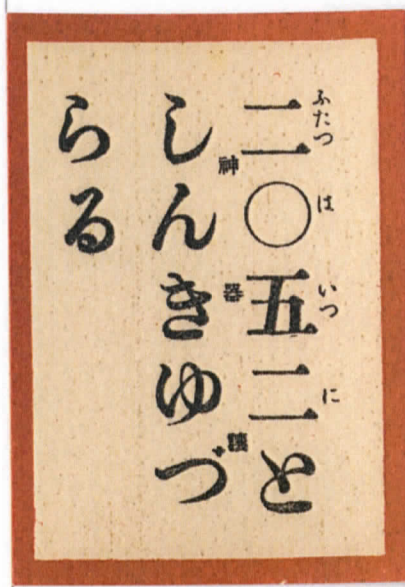
記年法も特徴的である。明治期以降の歴史事象は、明治、大正、昭和といった、元号で表記されており、これは今のものと同じである。しかし江戸時代までの歴史事象は、現在使われているような西暦ではなく、西暦紀元前 660 年を紀元元年とする、いわゆる

「皇紀」を使っている。従って、暗記すべき頼朝の将軍任命の年代は、西暦 1192 年ではなく、プラス 660 の 1852 年となる。かるた製作者は、「武家政治起こすは頼朝鎌倉幕府祝

ひに(1852)集う人も質朴」という語呂合わせを採用している。

このかるたは、形式としては百人一首かるたを模しており、絵札は主に人物を中心に歴史事象を記し、セットで下の句のみを記した文字札を用意している。そのうえで、記憶すべき語呂の部分は、必ず下の句の冒頭になるように工夫している。この 75 調を維持するために、中には、「ワシントン会議」のように、全く語呂合わせとしては成立していないものもみられるものの、「キリスト教信仰するのを止められて不服な(皇紀 2297 年=西暦 1637 年)九州島原の乱」のように、歴史事象の内容をたくみに盛り込んだものも目立つ。こうした中には、明治以降、皇紀による歴史教育と、受験の歴史が積み重ねられる中で、周知のものになっていた語呂合わせもあったかもしれない。

本図録では、絵札裏面に記している応用問題の部分を、絵札表面とともに新字現代仮名遣いでテキスト化して示した。





答 神武天皇が大和の樞原に宮をおたてになって、御即位の礼を御挙げになった年を紀元元年として居ります

問 我が国第一代の天皇はどなたですか

答 神武天皇です

問 御即位の礼は何処で御挙げになりましたか

答 大和の欽傍山の東南、樞原の宮です

問 我が国の紀元は何をもとにして定めてありますか



答 1 新羅を御征伐なさったので高麗百済も服して、国威が海外に輝き 2 熊襲も御徳になびき 3 応神天皇の御代に、百済の学者王仁や機織・鍛冶の職人等が来て、日本の文明が大変進みました

問 新羅を御討ちになさったのは誰で何時ですか

答 1 神功皇后で 2 紀元 860 年です

問 御供をした人は誰ですか

答 武内宿禰等です

問 新羅征伐によってどんな影響がありましたか



問 仁徳天皇の宮は何処にありましたか

答 当時の難波、即ち今の大阪市にありました

問 大阪に都があったのは何時頃ですか

答 第十六代仁徳天皇の時代で、天皇が御免税をして下さったのは紀元

976 年からでした

問 民を御恵み下さった事に付いて言いなさい

答 1 飢饉で苦を嘗めて居る人民に 3 年間御免税になり 2 御質素な皇居や、御衣も御心にかけ給わず 3 農業を御勧め下さいました



問 仏教は何所から伝わりましたか

答 百済から伝わりました

問 何時伝わりましたか

答 第二十九代欽明天皇の御代で、紀元 1212 年です

問 我が国で最も古い建物は何ですか

答 大和の法隆寺です

問 法隆寺を建てられたのは誰ですか

答 聖徳太子です



問 大化の新政をなさったのは誰ですか

答 中大兄皇子(のちの天智天皇)と藤原鎌足です

問 大化の新政をなさったのは何時ですか

答 第三十六代孝徳天皇の御代で紀元 1305 年です

問 政治がどんなふうに変更されたのですか

答 これ迄有力者が土地人民を私有して居た習わしを止めて朝廷に納めさせられました

問 藤原鎌足は何処に祀ってありますか

答 大和の談山神社です



説明 これ迄の都は大抵御代毎に変わる習わしでしたが、此の度のは数代も続く様に、人の見慣れない唐風も取り入れて、結構を極めました

問 都を奈良に奠められたのは誰ですか

答 第四十三代元明天皇です

問 奈良奠都は何時でしたか

答 紀元 1370 年(和銅 3 年)です

問 奈良の都はどれ程の間続きましたか 答 御七代 70 余年の間です

答 1 和氣清麻呂が建議し 2 山河麗わしく 3 便利も多いからです

問 平安の都は何時まで続きましたか

答 明治の初まで 1070 余年間です

問 桓武天皇は何所に御祀りしてありますか

答 京都の平安神宮です



問 平氏が勃興する様になった戦の名は何ですか

答 保元の乱と平治の乱です

問 保元の乱は何時起こったのですか

答 後白河天皇の保元元年で紀元 1816 年です

問 保元・平治の乱には平氏はどちら方でしたか

答 常に天皇方でした

問 平清盛の我儘について言いなさい

答 藤原氏にも優る榮華の果に、後白河法皇をおし込め奉り等して人に忌まれました



問 和氣清麻呂は何時頃の人ですか

答 第八十四代称徳天皇(奈良時代)の御代で、宇佐八幡宮の神教を御受けしたのは、紀元 1429 年でした

問 其の時の宇佐八幡宮の神教を言いなさい

答 我が国は国の初から君臣の別が明らかで

ある。決して臣を以て君とする事はない。無道の者は早く除けと仰せられました

問 京都の護王神社には誰が祀ってありますか

答 和氣清麻呂と姉の広虫です



問 武家政治は 1 誰が 2 何時始めましたか

答 1 源頼朝 2 紀元 1852 年(建久 3 年)

問 頼朝の政庁はどこにあって何と言いましたか

答 鎌倉にあって幕府と言いました

問 頼朝の政治方針を言いなさい

答 根本は質朴と尚武で 1 鎌倉に住み 2 高位に登って京都の人と交わる事を好まず 3 質素儉約を進め 4 狩等を催して武士の勇気を養いました



問 都を京都に奠められたのは 1 何時 2 誰ですか

答 1 第五十代桓武天皇 2 紀元 1454 年(延暦 13 年)です

問 何故京都に御遷しになったのですか



て従弟義仲を殺し、弟義経・範頼をも除いたので、頼朝薨
後の源氏に偉い人が無くなり又公暁は実朝をも殺して自
からも殺されたので源氏の系統が絶えました



執権時宗は豪胆にして怖れず 3 下国民も皆奮起して 4
幸にして神風の助けがあったからです



吉野朝廷時代終る
後龜山天皇後小
松天皇に
ふたつはいつに
二〇五二と
神器譲らる

應仁の亂
戰國の時代
作る應
仁は
二二二七
がき亂なり



何年続きましたか

答 義満が將軍になってから約 180 年です

問 信長の出世戦の名と彼を祀った神社の名を言いなさい

答 1 桶狭間の戦 2 京都の建勲神社



輩の柴田勝家を賤岳に滅す 3 東国の雄小田原北条を服す

問 足利幕府は何

時滅亡しましたか

答 足利義昭が信長の名声を嫉み、又將軍職を奪われる事を恐れて、之を除こうと計って自ら追出された、紀元 2233 年(天正元年)です

問 足利幕府は約

答 一、文禄役 1 明に修交を拒絶されて 2 征明の道を朝鮮に借りようとして断られたので 3 朝鮮を討って明に及ぼうとしました 二、慶長の役 明の講和使の持ってきた国書に「秀吉を日本国王にする」と書いてあったので其の無礼を怒ったのです



問 関原の戦があつたのは何時ですか

答 紀元 2260 年(慶長 5 年)です

問 両軍の主将は誰ですか

答 西軍(豊臣方) 石田光成 東軍 徳川家康

問 関原の戦の起つた原因を言いなさい

答 1 秀吉の薨後は家康の勢が独り盛りマになりました 2 光成は之れを豊臣家の為めに不利だと考えて 3 上杉景勝 毛利輝元等と計って家康を除こうとしたのが此の戦の原因です



問 江戸幕府は 1 誰が 2 何時開きましたか

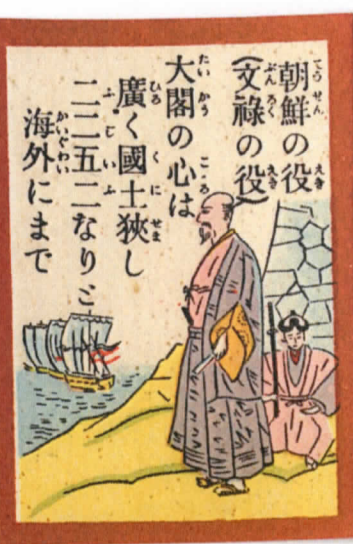
答 1 徳川家康 2 紀元 2263 年(慶長 8 年)

問 家康の功を言いなさい

答 1 国内を統一し 2 善政を布き 3 学問を起し以って 4 江戸幕府 265 年の太平の基を開きました

問 徳川家康はどこに祀ってありますか

答 下野日光山の東照宮です



問 豊臣秀吉は何所に祀られて居ますか

答 京都の豊国神社です

問 秀吉が朝鮮に出兵したのは何時ですか

答 紀元 2252 年(文禄元年)です

問 秀吉はなぜ朝鮮に出兵したのですか



問 キリスト教に対する信長・秀吉・家康・家光の態度はどうか

答 信長・保護しました 秀吉と家康・禁じました 家光・厳禁して遂には鎖国迄しました



た影響を言いなさい

答 1 キリスト教は絶えましたが 2 外国との交通が全く衰え 3 洋書も読めなかったので 4 国民は外国の事情に



問 鎖国は1誰が 2何時しましたか

答 1 徳川家光が 2 紀元 2299 年にしました

問 徳川時代に尚、日本と交通貿易をして居たのは何国ですか

答 オランダと支那(キリスト教に無関係)です

問 鎖国によって受け

うとくなり 5 世界の進歩に後れました

問 ペリーは何時、何所に来ましたか

答 紀元 2513 年(嘉永 6 年)浦賀に来ました

問 ペリー来航の目的は何ですか

答 我が国と和親を結び、通商を開く事です

問 我が国はどんな影響を受けましたか

答 1 幕府は驚いて之れを朝廷に奏上し、諸大名の意見を徴し 2 攘夷開港の論争はいよいよはげしくなり 3 翌年にはペリーと和親条約を結んで 4 鎖国が解け始めました



問 結んだのは何時ですか

答 起源 2518 年(安政 5 年)です

問 誰と誰が、結んだのですか

答 大老井伊直弼と合衆国の総領事ハリスです

問 どんな条約ですか

答 合衆国と結んだ通商

条約で、下田・函館の他に神奈川・長崎・新潟・兵庫も貿易場にしました。続いて和・露・英・仏とも同じく結びました。(無勅許の条約ですから、直弼は「違勅者」と責められました)



問 王政が復古したのは何時ですか

答 紀元 2527 年(慶応 3 年)です

問 1 大政を奉還した將軍は誰ですか。

又 2 それを勧めたのは誰ですか

答 1 徳川慶喜 2 勧めさせたのは山内豊信で、勧めたのは後藤象次郎です

問 明治維新の主な功臣 5 人の言いなさい

答 三条実美・岩倉具視・西郷隆盛・大久保利通・木戸孝允です



肥前の四藩主です

問 政治上どんな影響がありましたか

答 1 家柄を重んじた習わしを止め 2 人材が常雇される事となり 3 天下の政治が一途に出て 4 明治維新の大業が初めて出来上がりました



てられて、「政府の施政に問う所あり」と、立ったのです

問 1 藩をやめ、県を御置きになったのは何時ですか 2 それに最も力を尽くしたのは誰ですか

答 1 明治4年7月 2 木戸孝允です

問 孝允の勧めに、最初に応じた大名は誰ですか

答 薩摩・長門・土佐・

ろうとの有難い大御心から出たもので、国民は御仁徳を仰いで和気が上下に満つ中に発布されました 斯の様事は外国ではめったに例のない事で、我が国体が万国に優れて居る事がよくわかります



問 宣戦の詔は何時下りましたか

答 明治27年8月です

問 日清戦争の起った原因を言いなさい

答 清は1 朝鮮を属国扱いにし 2 其の内乱に乗じて大兵を送り 3 相共に朝鮮の悪政を

改めようとする我が勧めをきかず 47月には豊島沖で我軍艦を砲撃して戦をしかけました

問 威海衛の戦の彼我陸海主将は誰ですか

答 陸軍大山巖 海軍伊藤祐亨 敵将丁汝昌



問 下関条約は何時結ばれましたか

答 明治28年4月です

問 下関条約とは何の条約ですか

答 日本が支那に勝って結んだ日清講和条約です

問 両軍の代表者は誰ですか

答 日 伊藤博文・

陸奥宗光 清 李鴻章です

問 此の条約で何がきめられましたか

答 清は1 朝鮮の独立を認め 2 遼東半島台湾澎湖島及び3 償金2億両(テール)を我が国に割譲しました



問 皇室典範や憲法は何時発布されましたか

答 明治22年紀元節の日です

問 憲法発布の事情が外国とどう違いますか

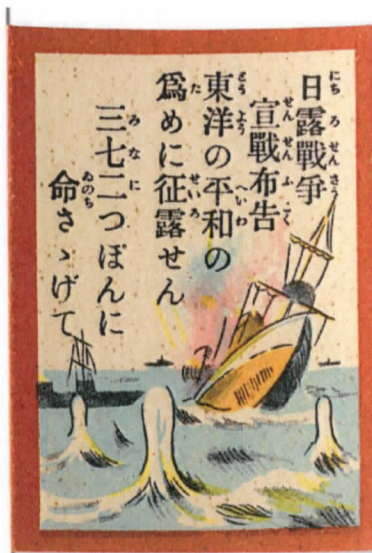
答 我が憲法は天皇が、専ら国民の幸福を計り、共に国運を御進めなさ



税も自由になりました

問 列国が条約改正に同意した訳を言いなさい

答 1 憲法を布き議会が開かれて法律制度が整い 2 清を降して国の実力が現れたからです



3 旅順の防備を固め海陸の兵を増したからです

問 1 陸軍記念日 2 海軍記念日は何時ですか

答 1 3月10日 2 5月27日です



問 条約改正が出来か

けたのは何時ですか

答 明治32年7月です

問 どんなにマ条約が

改正されたのですか

答 幕末に結んだ不利な条約が改められて国内居留の外国人も我が裁判に服する様になりました。程なく関税の課

問 どんな事をきめましたか

答 露国は1日本が韓国が持つ特別の権利を認め 2 樺太南半分 3 南満州鉄道 4 関東州の租借権を、日本に譲りました

問 日本が大勝利を得たわけを言いなさい

答 1 天皇の御稜威 2 国民の挙国一致です



問 韓国が併合されたのは何時ですか

答 明治43年8月です

問 何故韓国を併合したのですか

答 1 日本の保護国の俣では長年の弊政が改まり難く 2 韓国の国利民福の爲め、併合を望む韓民多く 3 皇帝も併合を望ま

れ 4 明治天皇も、其の必要を御認めになったからです

問 韓国併合に最も功があったのは誰ですが

答 伊藤博文です



問 欧州の大戦が始まったのは何時ですか

答 大正3年7月です

問 日独戦争の詔は何時下りましたか

答 欧州大戦の始まった翌月です

問 日本は何故欧州大戦に参加したのですか

答 1 独艦が膠州湾に出没して東洋平和をおびやかしたので 2 日本は日英同盟の好を重んじ 3 東洋平和を保つ爲めに参加したのです



問 1 平和条約は何時結ばれ 2 委員は誰ですか
 答 1 大正 8 年 6 月で 2 西園寺公望等です
 問 国際連盟は何時出来たのですか
 答 パリー平和会議の時です

問 国際連盟の目的は何ですか
 答 各国力を合わせて、世界平和をはかる事です
 問 平和会議で我が国はどんな権利を得ましたか
 答 旧ドイツ領の、南洋諸島を統治する権利を得ました



問 此の会議は 1 何国の発起で 2 何時開かれましたか
 答 1 アメリカ合衆国の発起で 2 大正 10 年です
 問 1 主な参加国は何国で 2 使節は誰ですか
 答 1 日・英・米・

仏・伊の五ヶ国で 2 加藤友三郎等です
 問 ワシントン会議では何をきめましたか
 答 1 海軍の軍備を縮小すること 2 日・英・米・仏の 4 国は、太平洋方面にある各国の領地についての問題を協同できめること 3 日英同盟廃止



問 満洲国は、何時建国されましたか
 答 昭和 7 年 9 月です
 問 どんないきさつから建国されましたか
 答 支那が我が南満洲鉄道を爆破した事から、満洲事変が起って、建国を見るに到りました
 問 満洲国に対する、我が

国の使命を言いなさい

答 1 満洲国の健全な発達を助け 2 支那とも親しく交際して 3 日・満・支三国協同して、東洋永遠の平和をうち立てる事です



問 我が国が国際連盟を離脱したのは、何時ですか
 答 昭和 8 年 3 月です
 問 何故、国際連盟を離脱したのですか
 答 1 連盟は満洲に於ける我が正当な行を認めず 2 「満洲を連盟の管理下に移せ」等と無理を強いましたので、止む

なく離脱して 3 満洲国の発達を図り東洋平和をますます固めようとしたため 説明 表の写真は全権委員松岡洋右です



問 満洲国が帝国になったのは、何時ですか
 答 昭和 9 年 3 月です
 問 第一代の皇帝は誰ですか
 答 前の執政溥儀です
 問 何故帝位につかれたのですか
 答 国内の秩序もだんだん整ったので、人民の望む俤に帝位に即かれて、慈雨の如き王道政治で民草をうるおさす為です

展示図書リスト

1.国史教科書(小学校)

請求記号	書名	著者名	出版者	出版年月	所在
210.1-112-2	国史教科書 [修正版] 下巻	峰岸米造編	六盟館	190-	書庫1
375.9-0000	高等小學日本歴史 巻1	文部省著	日本書籍	1911.12	書庫1
375.9-0000	高等小學日本歴史 翻刻 巻2	文部省著	大阪書籍/国定教科書共同販賣所 (發賣)	1912.12	戦体開架
375.9-0000	尋常小學日本歴史: 兒童用 修正 巻1	文部省著	大阪書籍/国定教科書共同販賣所 (発売)	1912.10-	戦体開架
375.9-0000	尋常小學日本歴史: 兒童用 修正 巻2	文部省著	大阪書籍/国定教科書共同販賣所 (発売)	1912.10-	戦体開架
375.9-0000	尋常小學國史 修正 下巻	文部省著	大阪書籍	1940.2	戦体開架
375.9-0000	小學國史: 尋常科用 翻刻 下巻	文部省著	大阪書籍	1941.5	戦体開架
375.9-0000	尋常小學國史 翻刻 上巻	文部省著	大阪書籍	1934.3	戦体開架
375.9-0000	くにのあゆみ 上	文部省著	大阪書籍	1946.9	戦体開架
375.9-0000	くにのあゆみ 下	文部省著	大阪書籍	1946.9	戦体開架
370.8-9-19	歴史 第2(日本教科書大系:近代編 第19巻)		講談社	1962-1963	一般開架
370.8-9-20	歴史 第3(日本教科書大系:近代編 第20巻)		講談社	1962-1963	一般開架

2.国史教科書(中等学校)

請求記号	書名	著者名	出版者	出版年月	所在
210.1-90-1	女子日本歴史教科書 上の巻			1903	書庫1
210.1-90-2	女子日本歴史教科書 下の巻	下田歌子著	文学社	1903	書庫1
210.1-96	中學日本歴史教科書	大森金五郎著	文學社	1903.3	書庫1
210.03-43	統合歴史教科書 大正3年修正版 年表	齋藤斐章著	大日本図書	1913.5	書庫1
375.9-0000	中等教科日本歴史教科書 4訂増補 上巻	三省堂編輯所編纂	三省堂	1927.12	戦体開架
375.9-0000	新國史: 新制版 訂正 第1學年用	中村孝也著	帝國書院	1933.1	戦体開架
375.9-0000	女子國史 訂正6版 上巻			1936.11	戦体開架
375.9-0000	女子國史 訂正6版 下巻	齋藤斐章著	大日本図書	1936.11	戦体開架
375.9-0000	女子國史通記: 高等女學校上級用 訂正3版	西田直二郎著	積善館	1939.11	戦体開架
375.9-0000	日本の歴史 上	文部省著	中等學校教科書	1946.10	戦体開架

3.自習書等

請求記号	書名	著者名	出版者	出版年月	所在
375.1-0000	日本出版社の優良大全科 改正版, 昭和12年版 尋常5年生後期用	小學教育研究會編纂	日本出版社	1937.9	戦体開架
376.8-0000	木山の口頭試問: 教科書中心・試験問題を基調とせる最も新しい・表にまとめた	木山淳一著	受験研究社	1936.11	戦体開架
376.8-0000	木山の國史: 教科書中心・試験問題を基調とせる口頭筆答試問・最後のまとめ 尋常56年参考用	木山淳一著	受験研究社	1936.10	戦体開架

375.3-0000	小學生の國史：自修 改訂版 尋常第5學年	三省堂編輯所編	三省堂	1932.1	書庫1
375.9-0000	ぼくのわたしの日本歴史 上	[西荻書店] 編集部編	西荻書店	1951.3	戦体開架

4.通史

請求記号	書名	著者名	出版者	出版年月	所在
210.1-46	文部省検定試験問題対照大日本歴史	岡部精一, 高橋與惣共著	大同館書店	1923.2例言	書庫1
210.01-3	文部省検定試験問題対照大日本歴史 増補8版			1924.6	書庫1
210.1-38	日本歴史解義	藤森政次郎著	北隆館	1910.11	書庫1
210.1-60	國史概論	重原慶信著	白林社	1930.5	書庫1
210.1-0000	日本二千六百年史 新訂改版	大川周明著	第一書房	1940.9	戦体開架
210-0000	国史と時代の人々：日本精神史料	国民精神研究会編	国民図書協会	1938.5	戦体開架
210.1-0000	國史概説 上	文部省編纂	内閣印刷局	1943.1	戦体開架
210.01-217	概観日本通史 上巻	古田良一著	同文書院	1939.4-	書庫1
210.01-218	概観日本通史 下巻			1939.6	書庫1
210.1-15	日本通史	高桑駒吉著	弘道館	1912.10	書庫1

5.歴史教育論

請求記号	書名	著者名	出版者	出版年月	所在
370.4-7	輓近教育問題の研究	吉田熊次著	天佑社	1919.3	書庫1
375.3-23	文化史的教授：小學國史	佛性誠太郎著	寶文館	1922.11	書庫1
375.3-27	国史教育の新機構	大久保馨著	賢文館	1933.10	書庫1
375.3-6	歴史教育論	新見吉治著	同文書院	1934.11	書庫1
375.3-2	國史教育論	中村孝也著	章華社	1934.2	書庫1
210.08-263	歴史研究と歴史教育(岩波講座日本歴史)	西田直二郎[著]	岩波書店	1935.5	
375.3-5	国史教育の改善(紀要:第20号)	中村孝也著	啓明会	1936.8	書庫1
216.5-324	國史科郷土調査	奈良第三尋常高等小學校國史科研究部		1936	書庫1
375.32-2	皇國史教育の實踐體系	長谷川喜三郎著	第一出版協會	1939.10	書庫1
375.32-3	國史教育原論 増訂新版	栗田元次著	同文書院	1939.6	書庫1
375.32-1	魂の國史教育：教壇實踐二十年	久保田清著	第一出版協會	1939.9	書庫1
375.3-43	社会科教育法	柳田国男, 和歌森太郎著	実業之日本社	1953.6	書庫1
207-1	歴史の扱い方：歴史教育と歴史學 改版	つださうきち著	中央公論社	1955.10	書庫1
375.32-7	歴史教育法(大学教職課程シリーズ)	和歌森太郎著	金子書房	1954	書庫1
375.312-1	奈良県社会科教育の系譜(奈良の社会科)	奈良県小學校教科等研究会社会科部会		1975.6	書庫1
375.3-42	戦後社会科の復権	田中武雄著	岩崎書店	1981.9	書庫1
210.04-54	おやじの国史とむすこの日本史(中公新書:464)	福田紀一著	中央公論社	1977.4	書庫1
375.32-22	歴史教育五〇年のあゆみと課題	歴史教育者協議会編	未来社	1997.8	一般開架

6.教科書論

請求記号	書名	著者名	出版者	出版年月	所在
375.9-1	近代教科書の成立	仲新著	大日本雄弁会 講談社	1949.7	書庫1
375.9-70	教科書の歴史：教科書と日本人の形成 [本編]	唐澤富太郎著 社史編集委員会編	創文社	1956.1	書庫1
375.9-71	教科書の変遷：東京書籍50年の歩み		東京書籍 全国教科書供給協会	1959.10	書庫1
375.9-3	全国教科書供給協会二十年史			1968.11	書庫1
375.9-イエナ	「くにのあゆみ」編纂始末	家永三郎編著	民衆社	2001.2	一般開架
375.32-テシカ	歴史教科書は古代をどう描いてきたか	勅使河原彰著	新日本出版社	2005.7	一般開架
375.32-ヤマモ	こんなに変わった歴史教科書	山本博文著	東京書籍	2008.12	一般開架
375.31-カマモ	戦前日本中等学校公民科成立史研究：認識形成と資質育成を視点として	釜本健司著	風間書房	2009.2	書庫1

7.教育史、事情

請求記号	書名	著者名	出版者	出版年月	所在
376.8-2	縣立學校私立中學校入學試験状況取調書 大正5年版	奈良縣編	奈良縣	1916.9	書庫1
373.2-51	學制八十年史	文部省 [編]	大蔵省印刷局 帝国地方行政学会	1954.3	書庫1
373.2-55-1	学制百年史 記述編(MEJ:6825)	文部省 [編]	帝国地方行政学会	1972.10	書庫1
373.2-55-2	学制百年史 資料編(MEJ:6825)	文部省 [編]	帝国地方行政学会	1972.10	書庫1
371.3-6	競争の社会学：学歴と昇進 (Sekaishiso seminar)	竹内洋著	世界思想社	1981.9	書庫1
372.1-116-1	敗戦と教育の民主化(戦後日本教育史料集成:第1巻)		三一書房	1982.10	書庫1
371.3-31	試験の社会史：近代日本の試験・教育・社会	天野郁夫著	東京大学出版会	1983.10	書庫1
373.1-30	日本占領と教育改革	鈴木英一著	勁草書房	1983.6	書庫1
372.1-123	対日占領政策と戦後教育改革	久保義三著	三省堂	1984.8	書庫1
372.1-146	近代日本中学校制度の確立：法制・教育機能・支持基盤の形成	米田俊彦著	東京大学出版会	1992.1	一般開架
372.1-162	試験と競争の学校史(平凡社選書:163)	斉藤利彦著	平凡社	1995.11	一般開架
366.29-モチタ	実業世界の教育社会史(叢書・比較教育社会史)	望田幸男, 広田照幸編	昭和堂	2004.10	書庫1
210.04-ハセカ	「皇国史観」という問題：十五年戦争期における文部省の修史事業と思想統制政策	長谷川亮一著	白澤社/現代書館 (発売)	2008.1	一般開架
372.106-キムラ	日本の学校受容：教育制度の社会史	木村元編著	勁草書房	2012.3	一般開架

平成25年7月

奈良県立図書情報館